

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 31日

事業所名 キッズサポートクラブあしたばプラス

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 |
|------------------|----|--|----|---------------|-----|--|---|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 5 | 1 | | 身体を動かす遊び、座って行う遊びで場所を決め、十分にゆとりをもって過ごさせている。 | スペースの確保や遊ぶ場所は決めて行っているが、視覚的に児童が分かりやすいようにスペースの仕切りが必要。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 4 | 2 | | | 職員の質をさらに上げ、よりよい支援を心掛けていく。 |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 3 | 2 | 1 | トイレなど多少段差があるため、児童の移動時には見守りながら行っている。 | スロープなどはないが、床一面フラットにして段差がないようにし躓き転倒防止に努めている。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 4 | 2 | | | 業務改善は常に行い、話し合いも持ち、職員全員の連携強化を行っていく。 |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 4 | 1 | 1 | | アンケートを取り、具体的な改善策に繋がられるようにしていく。 |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 3 | 2 | 1 | | |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 3 | 2 | 1 | | 外部評価も必要性を感じ、今後対応を検討中。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 4 | 2 | | | 事業所内で、研修動画などを利用し、資質の向上を図っている。 |
| 適切な 支援の 提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 5 | 1 | | 個別計画書に伴い、日頃から課題分析・実行を行えるように取り組んでいる。 | 複数の職員から意見を吸い上げ、保護者のニーズを取り入れたうえで作成を行っている。 |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 5 | 1 | | その都度、各児童の状況について話し合い、課題解決について共有している。 | |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 5 | 1 | | 活動を行い、次回に向けての改善策などの話し合いも行っている。 | 児童に合わせた内容を職員間で話し合い、一人の意見だけにしないよう内容決定を行っている。 |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 5 | 1 | | 一度行った活動にはアレンジを加えるなどして同じにならないように工夫している。 | 常に工夫して行っているものの、児童が理解し遂行できるようにさらに工夫して行っていく。 |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 4 | 2 | | 平日に比べ、休日・長期休暇時には、活動の時間を多めに確保し、より細かい支援を行うよう取り組んでいる。 | 児童が楽しんで取り組める課題の考案を、職員間で協議する必要がある。 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 4 | 1 | | 個別のみではなく、他児との関わりを持たせるために、集団での活動も取り入れて支援に当たっている。 | 児童が興味を持ち参加できるように複数の職員の意見を取り入れて考えていく必要がある。 |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 5 | 1 | | | 話し合いにおいて、具体的に共有することで職員間の連携につなげて行く。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 5 | 1 | | | 当日中に行う、もしくは翌日の業務開始前にブリーフィングを持ち共有している |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 4 | 2 | | 個別課題に沿って、日々の様子を具体的に記録するように努めている | 行った活動内容のみならず、児童の成長やちょっとした変化が記載できるようにしていく。 |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 4 | 2 | | 中間・終期の評価を行い、時期の計画書策定に繋げている。 | モニタリングの頻度を多くし、職員間での共有につなげていく必要がある。 |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | 3 | 3 | | | マニュアルの追加を検討していく。 |

| | | | | | | | | |
|--------------|----|---|---|---|---|---|--|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 6 | | | 管理者・児発管が出席し話し合いを行っている。 | 管理者・児発管のみではなく、対象児童との関わりが深い職員も参加させるようにしている。 | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | 6 | | | 送迎時等も担当職員が情報共有し、課題解決に繋げるようにしている。 | 年間の児童の大まかな予定を把握するために、保護者へ年度初め年間行事予定表の提出をお願いしている。 | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | 3 | 2 | 1 | | | 現在該当児童なし。該当児童がいる場合には連携を取り、支援を行っていく。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 4 | 2 | | | 園と、児童の状態を共有し就学に向けた取り組みを話し合っている。 | 就学直前ではなく、早い時期から園との連携を深めていく必要がある。 |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 3 | 2 | 1 | | | 現在該当児童なし。該当児童がいる場合には連携を取り、情報の提供・共有を行っていく。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 3 | 2 | 1 | | | 今後専門機関との連携は必要であると感じる。研修については検討中。 |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | 3 | 2 | 1 | | | 現在コロナ禍であり、自粛しているが、時期を見て検討していきたい。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 3 | 2 | 1 | | | 地域との関わりを密にとり、支援に役立てていく必要があると感じる。 |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 6 | | | | 連絡帳や帰り送迎時などで保護者との共有を取っている。 | 伝えきれなかった部分に関しては、LINEなどのツールを利用し共有を行っていくようにする。 |
| 保護者への説明責任等 | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 3 | 2 | 1 | 児童の様子から、保護者へ支援方法や対策などのアドバイスを行い、同じ方向で進められるようにしている。 | 保護者支援に繋がる為、さらなる職員の資質向上を行う必要がある。 | |
| | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 4 | 2 | | | 契約時に時間を設け行っている。 | 保護者が理解しやすいように要点をまとめ、しっかりと伝えられるように事前に練習を行う。 |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 4 | 2 | | | | その都度対応しているが、保護者支援をするには時間が不十分と感じる。保護者面談の時間を設ける。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 3 | 2 | 1 | | | コロナ禍にあり、行えていない。状況を見て開催の検討する。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 6 | | | | 事業所内で共有し、すぐに対応している。 | 原因追及を始め、再発防止策も話し合い、対応していく。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 6 | | | | 月1回のお便りを発行している。 | 書面でのお知らせだけでなく、帰り送迎時にも保護者へ伝えたり、児童へワクワク感を持たせられるように取り組んでいく。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | 6 | | | | 書類・データ等の持ち出しは禁止している。 | 退勤前に確認を行う。 |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 5 | 1 | | | 可視化して分かりやすくしたり、ボードなどを使用して支援に当たっている。 | 電話のみならず、LINE等も活用して行っていくようにする。 |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている | 3 | 2 | 1 | | | コロナ禍でもある為、行事等は事業所内のみで行っている。今後要検討。 |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|------------------|---|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 4 | 2 | | 対応マニュアルは作成し事業所内に掲示してあるが、保護者までは周知できていないと思う。保護者がお迎えに来た際に、確認ができるような場所に掲示する必要がある。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 3 | 3 | | 毎年定期的に、発生を想定した訓練を実施している。児童らに的確に伝えられるよう事前にシミュレーションを行う必要がある。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 4 | 2 | | 事業所内研修で、研修動画を見るなどして対応に当たっている。 |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 4 | 2 | 身体拘束の事由が発生していない。 | 身体拘束の事象は起こっていないが、必要な場合、迅速に保護者へ連絡し対応していく必要がある。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 3 | 2 | 1 | 該当児童が現在いない。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 3 | 3 | | 事例が起こった際には、すぐに作成し職員間で共有が出来るようにしている。 毎日業務開始前のブリーフィング時に再度確認をしていく必要がある。 |